

プログラムの概要

本学科は、農学部で唯一の文系学科として、国内外の食料・農業・農村について、社会科学の視点から教育・研究を行っています。食料・農業・農村にかかわる生産、加工、流通、消費、貿易を対象に、生産現場を基軸に、行政や農業関連団体、金融や食料関連産業の分析を含めて総合的に学習します。21世紀の世界が直面する諸問題の解決に寄与できるよう、広い視野から実社会に貢献できる人材を養成する目的でカリキュラムを編成しており、「自らの意志で学び、自ら思考する」能力の開発を目指しています。

達成目標

(知識・理解)

- ・経済・社会問題を理解するために必要な社会科学の基礎を理解している。
- ・食料・農業・農村問題を理解するために必要な農学基礎を理解するとともに、農業経営・経済学の視点から問題を説明することができる。
- ・食料・農業・農村を取り巻く社会経済問題を理解するために必要な農政学・地域社会学、農業史等の関連専門科目の知識を有し、社会科学の立場から問題の有機的な関連を説明することができる。
- ・食料・農業・農村の現場から問題を発見し、解決していくために必要な調査手法、情報処理のための基礎的知識を有し、課題発見と解決のための仮説設定ができる。

(能力)

- ・地域社会および企業・経営の現場から問題を発見し、調査によってそれを明確化する課題発見能力
- ・国内外の経済社会および食料・農業・農村に関するデータ・情報を収集・分析し、その位置づけを行う論理的思考力と仮説検証能力
- ・課題を整理して発表し、コミュニケーションを図りながら解決策を提示できる企画立案能力

履修要件 (アドミッション・ポリシー)

1. 求める学生像

- (1) 社会科学を学ぶ基礎となる科目を幅広く修得している人
- (2) 論理的思考力があり、食料・農業の社会経済問題や農村地域のくらしに関心がある人
- (3) 現実の社会の中から学ぶ意欲と、コミュニケーション能力がある人

これらを判断するために、以下のような基本方針で入学者の選抜を行っています。

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 社会科学を学ぶ基礎となる科目を幅広く修得している人
- (2) 論理的思考力があり、食料・農業の社会経済問題や農村地域のくらしに関心がある人
- (3) 現実の社会の中から学ぶ意欲と、コミュニケーション能力がある人

到達目標に達するためのカリキュラム方針 (カリキュラム・ポリシー)

講義系科目として①社会科学の基礎として経済学、統計学、経営学、社会学、経済史の基礎理論、②農業経済学、農業経営学、農政学、地域社会学、農業史などの専門基礎科目、③財政学、農業市場論、環境・資源経済学などの専門関連科目、④他学科・他学部の関連基礎科目を段階的・総合的に編成しています。

こうした講義系科目に加えて、本学科では特に、トレーニング系科目として⑤計量分析や財務経営分析の知識、社会調査法としての実態調査手法の修得、⑥少人数ゼミナール形式の演習を重視するとともに、実習系学習として⑦農業や関連業界の実態を知るための実習や現地調査を配置しており、少人数ゼミナール教育の重視、フィールド体験型調査実習の重視、情報収集・分析トレーニングの重視により、現場重視の教育体系を取っている点にその特徴があります。

こうして身につけた能力を4年次の卒業論文で集大成させており、「自らの意志で学び、自ら思考する」能力の開発を目指し、広い視野から実社会に貢献できる人材を養成する目的でカリキュラムを編成しています。

学年進行的には、1年次は社会科学の基礎、2年次は食料・農業・農村に関連する農業経済学の基礎と技能の修得、3年次は農業経済学に関連する応用科目と調査・分析能力の修得、4年次は問題発見・解決型の卒業研究という段階的学習に配慮しています。

修了認定の基準 (ディプロマ・ポリシー)

達成目標に到達するため、共通教育科目34単位以上、専門教育科目92単位以上（卒業論文を含む必修科目56単位、選択必修で8単位、選択科目で28単位以上）、合計126単位以上の取得を条件とします。

食料生産・食品・金融・行政・管理・JA

農業経済学
卒業論文・卒業論文調査

